

巫祝呪咀

〔皇國名醫傳後編下〕山田圖南

山田正珍、字宗俊、以字稱、世幕府醫官、父正朝、號麟嘔、即菅麟嘔、姓菅原、剝用曰菅、有神童之稱、○中秋田侯有疾、服正珍

藥、會有一巫、以法伏疾、稱多靈驗、資緣勢貴、亦至侯邸、將行法、謂侍臣曰、藥劑且停、不則法驗不著、正珍

聞之、告侍臣曰、聞有巫止藥、侯病太丞、詎勉進藥、尙恐弗及、況止之乎、正珍願見其巫、侍臣唯唯退告巫

巫不可、正珍強見之、謂曰、聞汝以法生人、亦必能以法死人、汝試誑我、我與汝藥、汝法驗乎、我藥効乎、吾

且觀之、乃取紫圓迫而服之、巫振鐸唱呪、頃之腹痛懣悶、下利如傾、大懼且泣、固乞罷去、

〔溫故要略二〕嫉妬女呪詛シテ神木等ニ釘打事

和朝於今有此事、親見悲哉、

〔梅墩詩鈔初編二〕和島子玉丑時咀

玉樓瘦、銀海澀、行拂女蘿與露泣、廟扉已腐推無聲、古佛吹氣敵惟濕、大樹槎枒老藤垂、落月戀枝蹙

織眉、冬冬釘樹深、恨徹此恨狂、夫知不知秋帳有人曉、夢惡提劍起、問何其

雜呪

〔安齋隨筆後編一〕一嚏のマジナヒ ハナヒルクサメの事也、俗にハ凶事也とて、マジナヒをすする事あり、

徒然草に、クサメクサメと云てマジナフ事見えたり、クサメと云ハ、ハナヒル事にはあらず、ハナ

ヒル時のマジナヒの詞也、又下賤の人ハ、ハナヒル時、マジナヒ也とて、クソクラヘト云、拾芥抄に、

嚏ル時の頰に、休息萬命、急々如律令ト見えたり、休息萬命を、クソクマンミヤウとよむを誤り傳

へて、クソクラヘト覺えたがへたるものなるべし、

〔拾芥抄上本〕嚏時頰クサメノトキノ事

休息萬命 急々如律令、クサメト云ハ是也、

〔漢書三十〕嚏耳鳴、雜占十六卷 師古曰、嚏音丁、文、

右雜占十八家、三百一十三卷、